



板倉町揚舟ツアーで
船頭デビュー!!

佐藤 星さん

(国際観光学科1年)

川の流りに身をまかせ



小さい頃から父の影響で鉄道好きになり、旅行業界に興味を持ち、観光を学ぶため板倉キャンパスにやってきました。「観光業界への就職を考えて、船頭というアルバイトを選んだわけではなく、たまたま町のホームページに募集の告知が載っていたんです」と、少し恥ずかしそうに答える佐藤君。船頭デビュー以来、取材はすでに5件目だそうで、取材慣れしているのかと思えば、はにかみながらシャイな口ぶりで話す好青年だ。

板倉揚舟ツアーは、約2kmのコースを40分間で往復する。往きは川の流りが下りなので、任せておけば進んでいくが、帰りは上流に昇る。川底の深さが違ったり、砂の場合や粘土状の土の場合があり、竹ざおを操るのにコツが必要で、結構力もいるようだ。最初は運動不足で翌日の筋肉痛が激しかったけれど、最近はずいぶんコツを掴んだので、川の流りにあわせて漕げ

るようになってきました。川を登っていくときは、流れの強い中央ではなく、端のほうを通れば楽に進むんですよ」と、6人の先輩に教えてもらった技術を披露。「先輩たちは、僕の祖父くらいの年齢で、色々な社会で活躍した後、定年後の時間を船頭として過ごしているんですよ」と、雑談しながらも社会勉強をしている点はチャッカリ者である。揚舟ツアーの船頭は、板倉の昔話を説明しながら舟を漕ぐのだが、「最近乗せたお客さんは、板倉町に住んでいる人で、引越してきたばかりの僕らから漕ぐ羽目に……(笑)」

「ゴルフコンペには、神奈川からやってきた両親を乗せて親孝行。やっぱり息子が漕ぐ揚舟に乗るのは、不安のほうが強かったようで、普通のお客さんより怯えていた感じでした。安心して乗ってもらうためには、人間としても成長して、認めてもらう必要がありますね。両親からは、命を預かる仕事だからお客さんを第一に考えてがんばれと励まされた。9・10月の土日・日曜日は、定期的な舟が一日に6回出ているので、ぜひ乗りに来てほしい」と、佐藤君は営業スマイルをみせた。



NHK「中国語会話」
に只今出演中!

ファン Huang
黄 鶴さん

(国際経済学科4年)

中国電影界、「未来の新鋭」は彼女!?

彼女の写真を見て、「あれ?」と思った人も多いのでは。現在、NHKテレビの『中国語会話』に出演している黄さん。以前は中国吉林省のTV局でいわゆる女子アナをしていた。日本で言えば、勝ち抜きの「ど自慢」的な人気番組で2年間司会を務めた。中国でもアナウンサーは花形職業で待遇も良い。そんな人も羨む憧れの仕事を手に入れながら黄さんは悩んでいた。アナウンサー養成学校時代、インターンシップで体験した経済番組での、いまを伝える現場の緊張感が忘れられなかつたからだ。

「いつか自分の経済番組を作ってみたい。憧れは目標となるが、賛成してくれる人は一人もいなかった。だがこのまま穏やかな人生を歩むのは悔しい。目標達成の一番の近道は、もう一度勉強すること」と留学を決意。日本を選んだのは、アジアの中心でアメリカより文化が近いと思ったから。「あいつさえおから始めた2ヵ月弱の個人レッスンの末、来日し語学学校を経て東洋大学に入学した。十分とはいえない日本語レベルはノートを取るだけで精一杯のこととあった。隣に座った学生に質問を繰り返すと、以後、クラスメイトの方から助けを申し出てくれ、授業に困ること

はなくなった。2年生時には टीーチングアシスタントを任されるまでになった。

アナウンサーの経験を活かし、今春からはNHKテレビ『中国語会話』のレギュラーに。収録は長時間にわたり、何よりチームワークが求められる。TVへの出演は5名でも、制作に関わる多くのスタッフが番組を支えている。収録は1回で終わらせるといふ気持ちで臨んでいます。強いプロ意識の片鱗がのぞく。

今は大学院進学を目指している。「急成長した中国は、未知数の発展途上にある。中国人にとつてどのような経済システムを作れば社会としてうまくいくのかを知りたい。卒論テーマは、金融」についてだ。経済番組を作りたいと思ってきたのに金融に惹かれてしまった。学べば学ぶほど難しく面白いく。深く、広く、興味は尽きない。



番組出演者の皆さんと